
特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

令和2年度通常総会 補足資料

■ 通常総会タイムテーブル (あくまでも目安です。状況により変更となります)

時刻	時間	内容
14:00～14:20	20分	定足数確認、開会、議長・議事録署名人選出、趣旨説明、役員紹介
14:20～14:55	35分	第一号議案 令和元年度事業報告並びに決算及び監査報告について
14:50～16:00	70分	第二号議案 令和2年度事業計画並びに予算について
16:00～16:20	20分	第三号議案 令和2年度役員を選任について
16:20～16:35	15分	その他報告、質疑応答・意見交換、閉会

■ 「総会議事資料に関する意見交換会」ご報告 (Q&A 集)

2020年5月9日、10日、13日にオンライン会議システム Zoom を利用した「総会議事資料に関する意見交換会」を開催し、1回目は質問・意見を Google フォームにて収集し、2回目、3回目は参加者が4グループに分かれ、それぞれのグループに理事が入る形で意見交換を行った。

以下、質疑応答をまとめました。

1. ミッション、ビジョン、その他活動全般について

- 1) 社会課題だけが課題でしょうか？多くはビジネス上での課題解決を重要視している人が多いのでは？

→ ビジネスにおける課題の解決は、社会の課題への取り組みに直結する活動と捉えています。

- 2) 「社会課題の解決」という表現がいくつか見られます (P. 18 など)。「課題」は英語で言うと「task」であり、達成したり、実行したりするものです。解決するものではありません。解決するのは「問題」です。表現方法にとっても違和感を覚えます。

→ ご意見ありがとうございます。課題=issue と捉えての表現でした。「社会課題の解決」と「社会問題の解決」とも同じ意味合いで使われているケースもあると認識しています。

- 3) 新型コロナウイルス感染症の影響について

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響が反映されていない事業計画だが、どのように反映させるのか、その計画を知りたい。
- ・ コロナ禍の現状で、ファシリテーションが担う役割も大きいと思います。FAJ から発信できることも多々あるはずで、今年の1月に作成した予算書のままで、総会を開催するのはどうかと思います。事業計画を組み直しすべきではないかと考えています。
- ・ そもそもこの状況前に定義した方向性で議論できるのか？まず、そこからコンセンサスとるべきでは？
- ・ 全く緊急事態宣言状況やアフターコロナへの見解が記述されていないですが、全く触れないままでしょうか？

- ・ この1ヶ月先すら不透明になった時代に、コロナ前に作られた事業計画案と予算案について審議してもあまり意味がないという意見に賛成で、今年度の総会はさっさと議案を通して、その上で「じゃあ私たち FAJ は（もしくはファシリテーターは）この時代にどういうあり方でどういうやり方をしたらいいのだろうか、みたいな問いで対話した方がいいのではないかというのが提案です（つまり、総会の後に対話の時間を取る）。その上で、今年度はいろいろな試行錯誤のアクションが必要になるので、事業計画・予算に縛られない事業運営が求められるはずで、そこは理事会や支部・委員会により多くの予算執行判断を渡していくしかないのではないのでしょうか。
 - ・ コロナ前後で資料修正は必要ないのか？（GF、IAF など）
- 事業計画で書かれていることの大部分は、今回のコロナ禍の影響によって変わるものではないと考えています。
- とはいえ個別の活動の実施においては、中止や延期を余儀なくされることも多く、予算については中途での見直しも含めて考えていきます。
- なお、オンラインも広義の会場と捉え、その予算の中から Zoom の契約を行うことを認めるなど、現在の状況を踏まえ柔軟な対応をしていきたいと考えています。
- また、この社会の大きな変革期において、その活動のやり方や注力のバランスに関しては、随時見直していきたいと考えています。
- 対話の場を設けてはとのご提案については、総会前の理事会主催のイベントではまさにご提案の部分話すスタートとして位置づけています。「今まで通りにはいかない」この現状は、委員長、拠点長を含め運営に携わる人の「判断」が常に求められていると理事会も認識しています。そのうえで本来理事会がしなければならないことに注力する1年になると考えています。

4) COVID-19 に関係なく、拠点都市近郊以外の僻地会員の便益を考慮してほしい

- これまでも定例会・例会会場が遠いことから、なかなか参加ができないという声が上がっていたことは認識しています。ご承知の通り、新型コロナウイルスの蔓延により、定例会や打ち合わせのオンライン化が加速されています。そして、コロナが落ち着いたからと言って、この大きな流れが全くなくなることはないと考えています。オンラインとリアルをいかに組み合わせる活動を促進していくか、一緒に考えていきましょう。

5) これからの with コロナの時代に合わせて、地域支部単位の活動を見直してほしい

- ご意見ありがとうございます。ご承知の通りオンライン化が進むことで、現在、全国の会員がつながる機会が増えてきています。そんな中でのより良い拠点のあり方、会員の皆さんと共に、改めて考えていきたいと思えます。

6) コロナ収束後のイベントなど開催について、各支部に任せるのではなく、理事会としての一定の基準を作成すべきではないか？

- コロナの状況については、地域により状況も違うこともあり、各拠点で判断できるように考えています。

【参考】指針としては2020年2月に公式HPに記載

<https://www.faj.or.jp/about/organizer2/news/20200219/>

7) 「ターミナル」について

- ・ 「ターミナル」を目指すというポイントがよかったです。
- ・ ターミナルという言葉をもの様に今後活動していくのが、わかりづらい。役員の思いが会員全体に伝わる方法をどの様にしていくのか今後数年間にわたって行うのか、今年だけのものなのか明確にした方がよいのでは
- ・ 「ターミナル」は誤解を招くので、「ハブ」ほか異なる表現に変えていただきたい

- ・ 今年のキーワードは「ターミナル」ということですが、去年はなんでしたっけ？そもそも今年変えた理由がいまいち解りません。なぜ変える必要があったのですか？言葉だけ先行しそれが馴染むまでの時間が無駄な気がします。
- ・ 事業計画前文頭の「ターミナル（私の中では終末という語感が強い）を目指す」という言葉に違和感を感じました（そういう真意があるなら別ですが。笑）。「ターミナル駅」という表現だったらぴーちゃんの真意は伝わるので「駅」を付け加えてはどうでしょうか？というのが提案です。
- ・ 「ターミナル」という言葉に対する違和感が医療関係から寄せられていると、会長が意見交換会の説明でされていました。自分も説明の意味から、「ハブ」とか「バザール」と思い、「ターミナル」は説明スライドを見ても、駅や空港はイメージできませんでした。ビジョンとして不利と思います。

→ 「ターミナル」について、さまざまなご意見ありがとうございます。

「ターミナル」という言葉は、人によってイメージの異なることは承知しています。多くの路線を束ねる「ターミナル駅」のような役割を果たしていきたいという想いを表すものとして使っています。今年1月に神戸で開催した拡大理事会において、各拠点長の皆さんにもその趣旨をお伝えしているところです。各拠点の中においても「ターミナル」の意味を、対話を通してともに考えていきましょう。なお「ターミナル」という言葉を、「今後何年かにわたって」とは定義していません。今年度は、さらに理解を深めるためにも組織内のコミュニケーションに力を入れて対話の場をつくっていく予定です。

また、会員同士で対話を重ねることで「ターミナル」という言葉が馴染んでいくことが大切なので、時間を無駄とは考えていません。さまざまな背景からさまざまな解釈を生むことも、この言葉から気付くことができれば、私たちの知見が深まり、より良い活動につながると考えています。そこに「未来を感じるものがあるとすれば、なんだと思う？」という問いを投げかけたいです。だから敢えて「(終わりの意味合いも含む)ターミナル」なのかもしれません。これまでの延長ではなく、「ターミナル」から始まる私たち。ぜひ、一緒に語り合きましょう。

- 8) ファシリテーターズターミナルへの進捗状況が、年に1回のサミット・総会以外のタイミングで、一般会員も共有出来る機会があると、有り難いなと感じました。ファシサポなどの活動、各支部の運営委員会の議論なども、直接関わっていない会員には、理事会資料しか知る術がないのが現状。踏み込んで行かなくとも、「FAJ ってこんなことやっているんだよ」って、外の方に話せるような情報が欲しいです。それが、ターミナルを実現するためにも必要ではないか。

→ ご意見ありがとうございます。ご指摘の通り、FAJ 内の動きはなかなかわかりづらい現状があります。広報委員会と連携を取りながら、FAJ の活動が見えるようにしていきたいと考えております。特に FAJ 外への広報は強化していきたいことです。

- 9) 総会資料ページ2冒頭に「わかりあえなさ」「ギャップ」など社会に分断が生まれている状況を捉え、打開する術を模索する活動が開かれました とありますが、この社会的分断に関する現状をリサーチしている具体的リソースはあるでしょうか？現実的な企業からヒアリングしたのか、等、リサーチ法をお聞きしたいです。

→ 具体的リソースはありません。結果的に支部イベントで示されたテーマを決めるまでに話し合いが行われたことと、その話し合いに参加された方々が捉えたのではないかと、という背景を記しています。

- 10) 前文の「FAJ の物語を再構築していきます」がどうしても内向きの物語にしか聞こえない。FAJ が社会においてどんな物語を作っていくか、ワクワクする話が聞けるといいな、と思いました。

→ ご意見ありがとうございます。一緒に、「FAJ の物語を再構築して、FAJ 内外とつながり、新しいワクワクを創り出していきたいです。」

- 11) 今後の事業では、ファシリテーションを使って、SDGsのような新しいテーマ、話題を取り込んでいった方がいい。ファシリテーションは、調理器具、道具であり、それらを集めるだけでは、実際に役立たないままである。いろんな食材を、どのように調理すればいいのか、新しいレシピを作り上げる、紹介するというのが、役割ではないでしょうか？

→ ご意見ありがとうございます。SDGsに取り組む会員の方も多いですし、ニューズレターで取り上げられてもいます。一緒に取り組んでいきましょう。

- 12) ファシリテーションを調理法とたとえるのであれば、食材は様々なものが取り上げられるはずなので、より広げたいと思います

→ ご意見ありがとうございます。ぜひ一緒に、ファシリテーションの領域を広げていきましょう。

- 13) 事業計画のポイントについて「2020年度のFAJは、ワクワクな改革が動き始め、ファシリテーターの「ターミナル」を目指します。」の「ファシリテーター」を「ファシリテーションに関わる人」など、「ファシリテーター」という言葉以外に変更できないか。「ファシリテーター」は、会におけるその役割についている人、もしくは、職能としてファシリテーションを使用する人のことを指す言葉としてとらえられるのではないかと思います。(特に協会の外では)ファシリテーション(スキル)は、どの立場の人たちも有用なもので、あらゆる人たちが活用できるものであると考えておりますので、事業計画のポイントの一番上の文章には、「ファシリテーター」ではなく「ファシリテーション」という言葉を使っていたいただきたいですがいかがでしょうか？

→ ご意見ありがとうございます。FAJのミッションから、FAJに集まる人をファシリテーターと捉えての表現となっています。

<ミッション>

ビギナーからプロフェッショナルまで、ビジネス・まちづくり・NPO・教育・環境・医療・福祉など、多彩な分野で活躍するファシリテーターが集まり、多様な人々が協働しあう自律分散型社会の発展をめざして、幅広い活動を展開していきます。

- 14) 「ファシリテーションで」「発信」「FAJ内外」というキーワードが印象に残りました。FAJで学べるファシリテーションの多くは、「みんなが話し合おうと場に集まっている状態」を前提として語られている気がします。実際の現場では「話し合う気がない」「みんなで集まろうという発想がない」そんな状態からスタートすることも多いです。そんな人たちに、まずは「話し合っていていいかもね」と思ってもらえるような発信からしていかなくちゃーと思いました。

→ ご意見ありがとうございます。ファシリテーションが届いていないところに、いかにファシリテーションを届けるか。これもまた、FAJの大きな目標の1つだと考えています。広報委員会と連携を取りながら「ファシリテーションで」さまざまなことが変わっていけることを、どんどん発信していければと考えています。さらに、FAJ会員一人ひとりが「ファシリテーション」を届ける、そして「ファシリテーションで変わることを伝える実践者となっていくことを目指しています。

- 15) 他団体との連携というのは、具体的にどのようなアプローチを考えておられますか？

→ FAJがファシリテーターズ・ターミナルとなるためにどの団体と連携するのが良いか、会員のみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

- 16) 意見交換会における説明で「ファシリテーションのさらなる普及のため、現場実践から未来のファシリテーションを創造します」とあったが、具体的なイメージはあるか。探り探り見つけていくイメージでしょうか。

→ やり方としての具体的なイメージはありませんが、どのようなやり方をする中で未来のファシリテーションを創造していくことができるのか、会員それぞれが実践の中から生み出していきたいでしょう。

17) 会員数の減少に関する対策は、どう考えているのか？ それは定例会等のコンテンツに関わるのか？

→ 会員数の減少については、大きな課題の1つと捉えています。定例会コンテンツも含め、どのような対策が取れるか、一緒に考えていきましょう。なお今年度より、各拠点のコミュニケーションを促進するための場づくりを計画しています。

2. 調査・研究事業について

18) 対話の場の巨大イベントって開催されましたか？

→ 2019年度には実施していませんが検討を行い、ザ・ワールド・カフェ 25周年企画として実施する方向で進んでいます。具体的には広報開始をお待ちください。

19) 外向きの活動を増やすのであれば、外の人を定例会等に呼べるよう、各支部運営委員が知恵を使うべきと感じました

→ ご意見ありがとうございます。謝礼金の予算に限りがある中で、いろいろと工夫していきたいと思えます。外から人を呼ぶだけでなく、こちらから外に出ていくことも考えたいですね。

20) レベル分けした勉強会（定例会？）の開催もあると嬉しいです。だんだん慣れてきてスキルがあがってくると、より高いスキルを学びたいです。

→ 地域によっては、テーマに対する対象者を初心者・経験者と定めているケースがあります。常日頃参加される定例会の運営メンバーに相談をしてみたいはいかがでしょうか。

21) 現在 1400 名程の個人会員がいらっしゃるかと思うのですが、毎回ファシリテーションの勉強会（定例会？）は 30 名程の募集しかない気がします。全会員は、満足する参加はできているでしょうか？オンライン化する前、定例会に参加しようとしたら、参加枠は争奪戦のような状態。問い合わせしても定例会後に返信が届いて参加ができませんでした。また、オンライン化してメールで募集の連絡がきた際、受付開始が深夜0時というのは、ちょっと常識が問われます。運営が大変そうなので仕方ないと思うのですが、何か改善できる部分はあるかと思えます。ご無理のない範囲でですが、ご検討お願いいたします。

→ 定例会（例会）の企画・運営については、各支部（サロン）の運営委員会でそれぞれの状況に合わせて実施しています。これまでは、会員が定例会（例会）に参加する際に、距離的制約があったと捉えています。オンライン化により、これまで参加できなかった会員の皆さまでも参加できる定例会（例会）が増え、支部を超えた交流も増えたことから、定例会の定員数を見直している拠点も出てきています。ファシリテーションを調査・研究する場を必要とする方が、しっかりと参加できる環境をともに作り上げていきましょう。
なお、運営の疑問点は、対象となる拠点に連絡いただければと思います。学ぶ機会や場をどのように作っていくかは、一人ひとり知恵を出し合って考えていくことが必要です。参加者という立場だけではなく、ぜひ周りの人と学び合いの場を作るために力を合わせていきましょう。

22) サロンの予算が個別に書いていないが、ファシリテーション研修サロンは、通常通り活動できるのか？

→ 個別のサロン名を予算書には記載していませんが、きちんと計上しておりますので、ご安心ください。

23) 我々が獲得したノウハウをオープンにせよという印象を受けた。FAJのステータスや他団体との連携、社会貢献の名目のためにそれらをオープンにせよということなのか？FAJは、会員の調査研究の場であるべき。

→ FAJ内で行った活動は、その成果としてレポートなどを残し、それをFAJ内外に公開することで、会員相互による学びを深め、より多くの方にFAJに興味を持っていただくことにつながっていると考えています。なお、意見交換会当日にも触れましたが、著作権に関する規程を以下に示します。

【参考】

運営規程>第2章 会員>(関連法規の遵守)第5条 協会活動の中で、会員が作成した知的所有物の著作権は、全て著作者本人に帰属する。したがって、使用・複製・頒布等の行為を行う場合は、関連法規に則って行わなければならない。

3. 教育・普及事業について

24) 基礎セミナーのオンライン化について

- ・ 基礎セミナーのリアル再開が不透明な中、オンライン版を開催するなどの検討や取り組みはしているのでしょうか？
- ・ セミナーの開催については、実践編よりもオンライン化が急務ではないか？事業収入への影響も懸念される
- ・ 基礎セミナーが2月から実施されていないことに危機感をおぼえている。オンラインでの開催はないのか？検討されているのだとしたら、スケジュールを可視化してもらえると嬉しい。

→ オンライン版については検討課題にあがっていますが、まだ話し合われてはいません。

25) 実践編セミナーについて

- ・ 実践セミナーは数年前から検討されているように思えますがいつ実施されるのでしょうか？
- ・ なぜファシリテーション講座の実践編はまだリリースされないのか？リリースするならいつできるのか？要望は多いと思われる。

→ 本年度、2～3回程度の実施を計画しています。

26) 実践編コンテンツには、コロナショックで急速に進んでいるグローバルファシリテーションのコンピテンシーは含まれていますか？

→ 実践編コンテンツには「グローバル」及び「なんらかのコンピテンシー」といったコンテンツは含まれていません。

4. 支援・助言事業について

27) 2019年度の報告にある「教育分野の知見集約の実施方針を定めた」とありますが、可能な限り具体的に教えてください。

→ 過去の知見を整理し、報告するなどして、支援リソース(人、ノウハウ、コンテンツ)を充実させるという方針を定めています。

28) 災害復興のSNS発信を知りません。どこでみれば良いですか？

→ FAJ公式Facebookページの他、災害復興委員会で運営しているMLで、適宜発信を行っています。

29) 「防災減災に関するファシリテーションを通じた支援」とは、具体的にどのような支援をしたのでしょうか。防災減災時役立つファシリテーションの可能性を知りたいです。

→ 事業報告に記載の通り、主だったところでは、被災地における情報共有会議の支援、板書勉強会の開催による人材発掘や復興担い手に対するファシリテーション養成プログラム実施などが挙げられます。

30) コロナ対策時期、ポストコロナ時代の災害復興、防災にどう取り組もうか、考える場があるとありがたいです。

→ そのような場を設けることを、ぜひ一緒に考えていきましょう。

5. 交流・親睦事業について

31) 他団体との交流について、どこを見たらその実績が確認できますか？

→ 事業報告の詳細をご確認ください。

32) 今までどのようなコラボをしたか。また、これからコラボしたい相手はあるか

→ これまで、IAFをはじめとするさまざまな団体と、イベント共催等の形でコラボしてきました。これからどことコラボしていきたいかは、一緒に考えていきましょう。

33) 支部イベントの中止の意思決定プロセスを透明化すべき。

→ 各支部の支部イベント中止までのプロセスについては、情報を整理し、なんらかの形で共有できればと考えています。

6. 広報・コミュニケーション活動について

34) 広報委員会の活動による、効果を教えてください。

→ ご意見として承ります。公式サイトへの訪問数といった指標は設定していません。今後の効果測定については、広報委員会およびシステム管理委員会と連携して、考えていきたいと思っています。

35) 理事会は広報委員会の活動を止めないよう最大限の配慮をすべき。

→ 特定の拠点に対して、活動の制約がかかっているとは捉えておりません。

36) Slack での情報交換は限定的に思えます。広く知られていることでしょうか？

→ 現在の、FAJ 公式 Slack の登録者数は 100 名ほどで、まだ限定的と捉えられます。ぜひ、近隣の会員の方々を招待ください。

37) 広報・コミュニケーション、情報発信のための仕組み、しかけはどうするのか？現状でもシステム管理委員会には負荷がかかっており、これ以上の負荷増加は厳しいと考える。

→ 情報発信の効果的な仕掛けや負荷低減について、継続的に検討してまいります。

7. 組織運営に関わる活動について

38) 支部担当理事の権限と責任を具体的に知りたい。前記の内容が明確ではない場合、支部で具体化しても良いのか？

→ 規程には、以下のように記されています。活動で気になるところがあれば、一緒に話し合っていきましょう。

- (1) 支部活動の管掌
- (2) 専門委員会活動の管掌
- (3) 催事活動の管掌
- (4) 月次報告の審議・承認
- (5) 協会の広報及び営業活動の総括

39) 理事は支部・委員会の担当になりますが、支部・委員会はそれに対する拒否権はありますか？無いとすれば理由は何ですか？

→ 今年度は理事の担当制について大きく見直します。理事は個々の支部や委員会を担当するのではなく、各事業を担当することになります。詳細は総会当日に説明します。

40) 理事の人数ですが 再任 9 人 新任 3 人 とあります、理事の定員が 9 人 → 12 人に増えるという事ですか。

→ 理事の定数についてですが、定款には理事は 3 人以上 15 人以内と定められています。2020 年度は 12 名の理事を候補者として選出いたしました。(2019 年度の理事は 10 名でした)

41) 持続可能な活動とのことですが、一部委員や個人に負担がかかっているように思えます、具体的な施策や対応についてお聞かせください

→ 一部の方に負担がかかっている状況があると捉えています。まずは、活動範囲の整理を検討しているところです。まずは、組織運営に必要な範囲(システム管理、広報、事務局機能について)を想定しています。

42) ボランタリーの活動と法人運営の活動範囲の整理を始めました とありますが、総会資料なのでその範囲内容も記載した方が良いと思います。

→ ご意見ありがとうございます。範囲内容は前述(41)の通りです。

43) 今後、オンラインでの開催も増えると思います。参加費の回収を FAJ で統一 (Peatix やイベレジなど) する事を検討したほうが良いと思います。運営サイドの労力を軽減する施策を何か検討し、組織の足回りをしっかり整えていくことが必要な時期にあるのではないのでしょうか？

→ 今年度は、理事と拠点長との情報交流の場を継続的にもつ予定です。まずは、各拠点の運営のやり方を共有していくことで、参加費の回収等の具体的なものも含め、運営面の労力軽減につなげていければと考えています。

8. 決算、予算について

44) セミナーのオンライン化について質問がありましたが、セミナーが開催されない場合は収入の半分が無くなるので、経費も半分に絞るということを考えたほうがいいかなと思います。

→ FAJ の予算は、収支共に変動費が大部分を占めます。現時点では定例会、セミナーほか大幅に活動が制限されていますが、これにより収入、支出共に削減されるため、結果的に収支においては、大きな影響はないと考えています。

45) オンライン開催がメインであるが、会場費の見直しが行われていない事に疑問を感じる。適正な費用を見直すべきでないか。

(前述、新型コロナウイルス感染症の影響について、を参照)

46) 本予算はコロナ禍前に建てられた予算であり、現状を踏まえ検討すべきではないか？

(前述、新型コロナウイルス感染症の影響について、を参照)

9. その他

47) 自律分散型の組織なのだという言葉がいつも逃げ口上となっている。では自律分散組織として動けるようにするため、どのようなことをしているのか？

→ 自律分散組織として動けるようにするために共に考え、作り上げていく場を提供していくことを考えています。

48) 意見交換会で全く話せなかった、総会で納得できるようにするため、対応方法を考えているのか？

→ 同上

49) 現在、各支部・サロンでの定例会などがオンライン化しています。一方、基礎セミナーが休止となっています。今後、FAJ 会員の新規入会・既存会員の継続が減らないか心配です。理事会、各地の運営委員会などで対策などについて、対話・議論が促進されるように仕掛けてほしいです。私自身も運営委員会など、自分自身が関わっているところで対話・議論を行なって参ります。

→ FAJ に入会する入口の一つである基礎セミナーを実施できないことによる、新規入会数の減少懸念は同様に感じております。私たちそれぞれの範囲でできることについて対話や議論を行っていきましょう。なお、一つの動きとしては毎年 8 月下旬に実施している拡大理事会(この場には支部長、委員長が集まります)の時期を、7 月初めに早めました。

50) なぜ総会議事資料意見交換会は Zoom のみで開催するのか？より多くの会員から意見をもらうためには他の方法も併用すべきではないか？

→ デジタルツールを使う際に、環境面などでのアクセス課題があることは認識しています。今回は Zoom のみでしたが、検討が必要と捉えています。

■「総会議事資料に関する意見交換会」についての感想

【第2回および第3回総会意見交換会におけるグループでの話し合い概要】

1 第2回意見交換会

1) 1グループ

オンラインでのファシリテーションの力の発揮の仕方（あり方含む）、外部との取り組みなど、効果、可能性、検証についての意見が出ました。「社会でファシリテーションを活かす」ということの今後の議論の必要性についての提案がありました。FAJの中で役に立つことと身の周りで役に立つということと社会で役に立つことはつながっている（=FAJとして社会に役にたっている）のではという意見が印象的でした。

2) 2グループ

FAJの中が自律的でないとターミナルとして機能しないのでは？という投げかけがありました。個人の対立や分断が起きやすいのは、FAJの活動が縦割りでプロセスが見えないからというのが理由のひとつで、それが見えたらFAJを変えられるチャンスなのかもという話が出ました。オンラインが当たり前になった黒船がきた今、ファシリテーションの本質を考えたいという意見が出ました。

3) 3グループ

組織運営における負荷状況についての話し合いが行われました、ある特定の個人に負荷がかかっていると捉えている状況の共有ののち、それぞれが担っている役割をどのように感じながら活動をしていたか、といったことが話されました。もう一つの論点としては、実験場としてのFAJに価値があるということが話されました。話は、生み出された成果の著作権は誰にあるのか、といった話にも及びました。

4) 4グループ

世代、職種など、まだファシリテーションが届いていないところがあるという指摘がなされました。「ターミナル」はファシリテーションが届いていない現場にも届けるという意味に聞こえたとの意見が出され、FAJにはまだまだやるべきことがあるとの認識を共有できました。

コロナによる分断が起きているが、オンラインによってつなぐことができるのではとの指摘がなされました。そのためにはデジタルに乗れない人のフォローが必要、オンラインとリアルのコントラストが明確になった等の意見交換が行われました。

2 第3回意見交換会

1) 1グループ

「ターミナル」という言葉について、イメージが伝わった人、違和感を感じるという人の議論がありました。現在、過去の経験から何かをつなげていくというのはできない状況なのでこれからのファシリテーターのありかた、進みたいところを考えるということを議論すべきという提案がありました。時間が切れに。自分が何をするか、できるかがFAJ活動の本質のはずという意見も。

2) 2グループ

基礎セミナーのオンライン化に対しての話題が中心となりました。その際、現講座をそのままオンライン化をするのは難しいということに対して、講座の作り自体がオンラインで扱うのは難しいという部分とオンライン上でのファシリテーションが難しいという話の2つの側面があり、わけて考えるべきだという意見が出ました。リアルのよさとオンラインのよさそれぞれのよさを生かしていく方法を考える必要があるとの話も出ました。

3) 3グループ

ファシリテーターズ・ターミナルとして変化をもたらす場にしていけたら楽しい、という話がある反面、ターミナルとしての魅力がFAJにはあるのか。厳しく言うと傲慢なのではないかと感じるが、連携を必要としている組織は存在する、という意見が話されました。もう一つの話として、オンライン化が進むことによる変化について、遠方から運営に関わる人が増えたことや、今のオンライン化で行っていることがテクニカルの支援にとどまっていて、ファシリテーションに繋がっているのだろうか？更には、今度生まれる可能性のあるリアルとオンラインの分断や融合についても意見が交わされました。会員数減少のトピックもありましたが、これについては複合的な視点で話をしたい、とのことでした。

4) 4グループ

ターミナルというメタファーがとても良い、という話で盛り上がりました。「フランクフルトの駅がまさに『ターミナル』。ヨーロッパのいろんなところにつながっていて、そこに集まり、またそこから旅立つ」という言葉が印象的でした。また「外部の人と一緒に」という言葉が響いた」というコメントもありました。FAJに多様な人が集まり、ファシリテーションをキーワードに出会い、刺激しあい、外の人ともつながり、実践的に実際の場でどうやって私たちが行動していくのか。簡単ではないと思うが、ターミナルのイメージを共有していくのが大事だということを、みんなで確認する時間になりました。

3 意見交換会に対するご感想・ご意見

- ・ (1回目意見交換会について) 事前準備も含めて、参加者がもっと運営に協力すべきなのじゃないかなと思いました。雰囲気あまりよくないですね。
- ・ (1回目意見交換会について) 今回の取組みは初めてのことであり、いろいろと不具合があっても致し方ないと思います。私は参加できて良かったと思います。このフォームでの吸い上げも素晴らしいアイデアだと思います。さらには、本日の気づきをもとに、次回以降の意見交換会、総会当日の運営が少しでも改善されることを期待しています。関係者の皆さま、大変、お疲れさまでした。ありがとうございます。
- ・ (2回目意見交換会について) 来年の総会資料説明会も、リアルで集まれたとしてもこのやり方がいいかも！と思いました。たくさん意見交換できて良かったです。ありがとうございました。
- ・ 開催ありがとうございました。ミッションを意識して一年間参加していきたいと思います。
→ご意見、ご感想ありがとうございます。次年度以降の意見交換会については、みなさんの意見も参考にしながら、今後検討してまいります。

■総会議事資料正誤表

誤	正																																																																
<p>P3 2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業</p> <p>1) 従来の公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)</p> <p>● また、准講師トライアルを1回実施しました。</p> <p>P4 6 ミッションおよび組織運営に関わる活動</p> <p>1) 組織のあり方と運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)</p> <p>● 令和元年台風 19 号の支援活動において中央共同募金会より 1,830,000 円の助成金拠出を受けました。</p> <p>P23 4 交流・親睦事業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">事業内容</th> <th style="width: 20%;">実施日時</th> <th style="width: 50%;">実施場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="7"></td><td>未定</td><td>静岡</td></tr> <tr><td>未定</td><td>福岡</td></tr> <tr><td>未定</td><td>東京</td></tr> <tr><td>未定</td><td>札幌</td></tr> <tr><td>未定</td><td>仙台</td></tr> <tr><td>未定</td><td>大阪</td></tr> <tr><td>未定</td><td>広島</td></tr> </tbody> </table> <p>P24 令和 2 年度「特定非営利活動に係る事業」活動予算書</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">収入合計</th> <th style="width: 70%;">金額 (単位:円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東北</td><td>1,520,000</td></tr> <tr><td>東京</td><td>270,000</td></tr> <tr><td>中部</td><td>450,000</td></tr> <tr><td>関西</td><td>270,000</td></tr> <tr><td>中国</td><td>224,000</td></tr> <tr><td>九州</td><td>318,500</td></tr> </tbody> </table>	事業内容	実施日時	実施場所		未定	静岡	未定	福岡	未定	東京	未定	札幌	未定	仙台	未定	大阪	未定	広島	収入合計	金額 (単位:円)	東北	1,520,000	東京	270,000	中部	450,000	関西	270,000	中国	224,000	九州	318,500	<p>P3 2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業</p> <p>1) 従来の公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)</p> <p>● また、准講師トライアルを2回実施しました。</p> <p>P4 6 ミッションおよび組織運営に関わる活動</p> <p>1) 組織のあり方と運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)</p> <p>● 令和元年台風 19 号の支援活動において中央共同募金会より 1,090,000 円の助成金拠出を受けました。</p> <p>P23 4 交流・親睦事業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">事業内容</th> <th style="width: 20%;">実施日時</th> <th style="width: 50%;">実施場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="7">地域イベント</td><td>11月</td><td>静岡</td></tr> <tr><td>未定</td><td>福岡</td></tr> <tr><td>未定</td><td>東京</td></tr> <tr><td>未定</td><td>札幌</td></tr> <tr><td>未定</td><td>仙台</td></tr> <tr><td>未定</td><td>大阪</td></tr> <tr><td>未定</td><td>広島</td></tr> </tbody> </table> <p>P24 令和 2 年度「特定非営利活動に係る事業」活動予算書</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">収入合計</th> <th style="width: 70%;">金額 (単位:円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東北</td><td>318,500</td></tr> <tr><td>東京</td><td>1,520,000</td></tr> <tr><td>中部</td><td>270,000</td></tr> <tr><td>関西</td><td>450,000</td></tr> <tr><td>中国</td><td>270,000</td></tr> <tr><td>九州</td><td>224,000</td></tr> </tbody> </table>	事業内容	実施日時	実施場所	地域イベント	11月	静岡	未定	福岡	未定	東京	未定	札幌	未定	仙台	未定	大阪	未定	広島	収入合計	金額 (単位:円)	東北	318,500	東京	1,520,000	中部	270,000	関西	450,000	中国	270,000	九州	224,000
事業内容	実施日時	実施場所																																																															
	未定	静岡																																																															
	未定	福岡																																																															
	未定	東京																																																															
	未定	札幌																																																															
	未定	仙台																																																															
	未定	大阪																																																															
	未定	広島																																																															
収入合計	金額 (単位:円)																																																																
東北	1,520,000																																																																
東京	270,000																																																																
中部	450,000																																																																
関西	270,000																																																																
中国	224,000																																																																
九州	318,500																																																																
事業内容	実施日時	実施場所																																																															
地域イベント	11月	静岡																																																															
	未定	福岡																																																															
	未定	東京																																																															
	未定	札幌																																																															
	未定	仙台																																																															
	未定	大阪																																																															
	未定	広島																																																															
収入合計	金額 (単位:円)																																																																
東北	318,500																																																																
東京	1,520,000																																																																
中部	270,000																																																																
関西	450,000																																																																
中国	270,000																																																																
九州	224,000																																																																

以上